

県立 綾 瀬 高等学校 学校教育計画
(中期計画期間：平成 24 年度～平成 26 年度)

課程・学科	全日制・普通科	校長名	川端 麻穂
-------	---------	-----	-------

1 果たすべき役割

豊かな情操と高い教養を身につけた、健全な精神と実践力を持った人間の育成
綾瀬市の名前を冠する学校として、地域に根ざした、地域の誇りとなる学校づくり

2 教育目標

- 生徒一人ひとりが自らの進路や将来に対し、目標を構築し自己実現・進路実現を果たすことのできる力「人間力＝生きる力」を育成する。
- 芸術や文学を理解する豊かな心と生涯にわたりスポーツに親しもうとする気持ちを培う。
- 時流に流されずに真実を見極めようとする姿勢と主体的に生きるための判断力・実践力及び社会性を育成する。
- 家庭や地域との協働・連携を推進し、きめ細かく、且つ、幅広い教育活動を展開し、地域に貢献し信頼される学校を作る。

3 特色ある教育

- 8・9クラスを 10 クラスで展開し、すべての授業を少人数展開で行い、個に応じた授業を展開し、基礎的・基本的の知識・技能の確実な定着を図っている。
- 2年次では〈系〉を、3年次では更に多くの科目から必要に応じた科目を選択することで、判断力・決断力や主体性を引き出し、生徒個々の進路実現を強力に推進している。
- 生徒一人ひとりが主体的に活動する時間「ACT（アヤセの時間）」をカリキュラム上に明確に位置づけ、生徒が自ら考え行動する力を育成している。
- 「スタート神奈川」の一環として、近隣の小中学校への生徒による出前講義や交差点の横断指導補助や、「ふれあいプラザ（学童保育）」のボランティア活動への参加、部活動生徒の指導による近隣小学生対象の「夏休みちよっぴり体験」の開催等々、地域貢献が活発に行われている。

4 現状と課題

- 平成 21 年度から 5 カ年計画による「綾瀬高校の教育ビジョン」に沿って、生徒の「人間力＝生きる力」の育成に向けた教育活動を実践してきた。平成 24 年度は 3 年間の積み重ねの総合的な展開・熟成を図り、平成 25 年度は取り組みの検証、更に今後 10 年間を見通した「綾瀬高校の学び」を構築する。
- 学ぶ意欲と生活習慣の確立・規範意識の向上が図れ、生徒は落ち着いた学校生活を送っているが、継続した指導が必要である。一部の生徒の遅刻改善が鈍いこと、自転車の乗り方マナーの不徹底が課題である。
 - 生徒の主体的な意欲を育み、基礎基本力の確実な定着を目指した授業改善を推進しているが、新指導要領による生徒に対応した授業を提供できるよう、各教科及び全職員による研修の実施を計画している。中学校との連絡協議会も開催したい。
 - 生徒の進路実現に向け、キャリア教育研究推進校として、3 年間を見通した計画的な進路指導・キャリア教育を展開していく。

5 中期目標と主な方策

	視点	中期目標	目標達成に向けた主な方策
1	幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育の展開 ＜教育課程＞	教科科目の大胆な精選と選択科目の充実により、生徒の学びのニーズに対応できる教育課程を構築し、生徒の進路実現に向けた主体的な学びを支援育成する。	①新指導要領に沿い、1年生は基礎的・基本的な知識・技能の定着を徹底し、2年生では〈系〉を、更に3年生では必要科目を選択し進路実現を推進する。(1～3年目) ②学校外活動の単位認定数を増やし、卒業に必要な単位数に含める等、柔軟な学びを実践する。(2～3年目)
2	生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教育支援 ＜生徒指導・支援＞	生徒個々に応じた学習支援や進路支援及びカウンセリング体制を充実させ、きめ細かい教育支援を構築する。	①生徒が主体的に活動する時間「ACT」をカリキュラム上に位置づけ、個別学習指導や個人面談・相談に対応する。(1～3年目) ②8クラスを10クラス等の多展開を行い、すべての授業で少人数対応を実施する。(1～3年目)
3	確かな学力の向上 ＜学習指導・授業改善＞	授業改善を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の着実な習得を図り、思考力・判断力・表現力を育む本校の「学び」を構築する。	①英語の単位数を増加し、すべての授業を少人数クラスで実施し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。(1年目) ②各教科で研修を行い、授業・課題レポート及びテスト問題の工夫・改善を組織的・計画的に推進する。(1～3年目)
4	社会生活実践力の育成 ＜キャリア教育＞	基本的な生活習慣の確立を推進・継続し、社会人として求められる能力の育成に努めるとともに、キャリア教育の研究を通し、インターンシップに参加する等、生徒の職業意識の構築を支援する。	①家庭との協働連絡により遅刻を減らす指導を継続する。(1～3年目) ②教員のキャリア教育スキルアップをはかりを生徒への指導内容を充実させる。(1～3年目) ③道徳教育・シチズンシップ教育の充実を通して、自らを律しつつ、他と協調し思いやる心を育成する。(1～3年目)
5	地域との協働・連携による開かれた学校づくり ＜地域等連携＞	学校行事を公開したり、地域と連携した行事を企画するなど開かれた学校づくりを推進するとともに、部活動・委員会活動を活性化させ、生徒が主体的に地域活動に参加する体制を構築する。	①保護者や地域の方々と協働・連携した教育活動を展開する。(1～3年目) ②風紀委員会による小中学生対象の出前交通安全指導講演や、各部活動による小学生対象の「夏休みちよっぴり体験」を更に充実させ実施する。(1～3年目)
6	信頼に根ざした学校づくりの推進 ＜学校運営・学校管理＞	(1)学校HP充実させ、県民の方々へ本校の教育活動の広報周知を促進し、学校理解を図る。 (2)生徒の防災意識を高め、安全対策を強化するとともに、地域と連携した防災訓練を実施し、災害時の体制整備を実施する。	(1)学校HP・学校案内を刷新し、より見やすく分かりやすいものに切り替える。(1～2年目) (2)①教育活動全体を通して防災教育を実施する。(1～3年目) ②防災マニュアルを改善し職員や生徒・保護者に周知徹底するとともに、地域と連携した防災訓練を実施する。(1～3年目)